



## 特産物を市場関係者にPR

### 豊洲市場でJAふじ伊豆農産物宣伝会開く

当JAは2月1日、東京都の豊洲市場（東京シティ青果）で農産物宣伝会を開き、市場関係者に向けたトップセールスを行いました。藤沼和明専務や高木力常務、当JA職員や西浦柑橘出荷部会の役員が参加しました。

特産のイチゴやミカン、トマト、ワサビ、キヌサヤなど7品目を展示PRした他、「西浦みかん寿太郎」を200袋配布。当JA特産物の魅力を発信しました。



当JA特産物の展示などで市場関係者にPR

## 組合員の意思反映に向けて

### 第2回地区本部運営委員会代表者会議開く

当JAは2月22日、令和5年度第2回地区本部運営委員会代表者会議を沼津市で開きました。

各地区本部運営委員会の会長・副会長、JA役員51人が出席。各地区から寄せられた意見と対応について検討した他、JAからあぐりチャレンジ・あぐりサポート事業の助成・進捗状況の報告や新サービスJAポータル紹介、大規模災害発生時の対応方針など各事業の取り組みを報告しました。



活発な意見交換



## 災害時の対応万全に

### 大規模地震の発生を想定し初動訓練

当JAは2月8日、大規模地震を想定した初動訓練を行い、本店、各地区本部、支店が災害発生時の対応や被害状況の報告手順を確認しました。

管内全域での訓練は今回が初。共済業務に関する初動対応を確認した他、災害用無線機を使用して被害状況の報告訓練を行いました。訓練を重ね、迅速・適切な初動対応で、いち早く被災者に安全・安心を提供できるよう体制を万全にしていきます。



災害用無線機を使用した報告訓練



## インスタ農業体験イベントでPR

### 「農業振興の応援団」フォロワーがふじ伊豆を満喫

静岡県JAグループ運営のInstagram「農業振興の応援団」のフォロワーを対象にした農業体験イベントが1月30日、当JA管内で開かれました。

県内外から24人が参加。「みしまるかん」でバックヤード見学や特産物の試食、買い物、「江間いちご狩り」では特別に2品種の食べ比べを楽しみました。その他箱根西麓三島野菜のほ場散策、同野菜やイチゴのランチを味わい、当JAの魅力を楽しみました。



同イベント限定で2品種のいちご狩りを楽しむ参加者



JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。

各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

## 管内の生産者が多数入賞

### 関東東海・県の品評会や共励会で各賞を受賞



12月から2月にかけて、関東東海・県の品評会や当JA堆肥共励会などが行われ、管内の生産者の方々が多数入賞されました。各賞の上位入賞者は次の皆さまです。

#### ■第72回関東東海花の展覧会

敬称略、( )かっこ内は地区名

金賞 田村 俊宣(伊豆太陽)・田村 雅代(伊豆太陽)・鈴木 顕一(伊豆太陽)・渡邊 勇暁(富士)・中村 和明(なんすん)・大川 和也(三島函南)

銀賞 田村 丞(伊豆太陽)・山田 寿美子(伊豆太陽)・八代 泉(伊豆太陽)・田村 利昌(伊豆太陽)・木村 富男(伊豆の国)・萩原 敏明(伊豆太陽)・持田 忠継(なんすん)

#### ■第39回静岡県花の展覧会

金1席・農林水産大臣賞 鈴木 顕一(伊豆太陽)

金賞 渡邊 勇暁(富士)・遠藤 美行(伊豆の国)・山田 巧(伊豆太陽)・山田 和司(伊豆太陽)・持田 泉(なんすん)・齋藤 みつ子(伊豆太陽)・持田 祐子(なんすん)

#### ■第58回静岡県貯蔵ミカン品評会

優秀賞・静岡県知事賞 石倉 健(なんすん)

#### ■第44回静岡県中晩生柑橘品評会

一等賞 田村 政一(伊豆太陽)  
二等賞 稲葉 安雄(あいら伊豆)・太田 重和(伊豆太陽)

#### ■第1回富士伊豆農業協同組合堆肥共励会

最優秀賞 大美伊豆牧場(伊豆の国)

優秀賞 松下 善洋(富士宮)・飯田 正彦(伊豆の国)

優良賞 赤池 昭悟(富士宮)市川 智美(富士宮)・(株)やまだいふあーむ(なんすん)・加藤 徳夫(なんすん)・(株)ひらい商店(伊豆の国)

#### ■令和5年度静岡県農地利用最適化推進活動事業知事賞

優秀賞 佐野 良一郎(なんすん)

# ふじ伊豆 Fuji Izu Topics トピックス



▶金賞・農林水産省農産局長賞を受賞した田村俊宣さんのカーネーション



◀堆肥を審査するトップ営農指導員ら

## 主要品目で新たな取り組み

### イチゴ・ワサビ・柑橘でサミットや講習会開く



レモンのブランド化へ岩崎教授が当JAのブランディングアドバイザーに就任(中央奥)



当JA主要品目で新たな取り組みが始まっています。1月、2月にサミットやセミナー、講習会を開き、各地区の生産者や高木力常務、JA職員、関係機関職員が出席しました。

イチゴでは、各産地の生産者ら約100人が集まり、全体栽培講習会を初開催。生産技術の向上と産地間の連携を図りました。柑橘では、農産物のブランド化に詳しい県立大学の岩崎邦彦教授を講師に迎え「レモンのブランドづくり・マーケティングセミナー」を開催。ブランディングと生産拡大を並行し、レモン産地化を目指します。ワサビでは4地区の産地代表者らが集まってサミットを開催。販売状況の共有や昨年度から取り組む、産地全域への苗の安定供給体制の確立などを話し合いました。

※「レモンのブランドづくり・マーケティングセミナー」は、「JA共済 地域・農業活性化促進助成金」を活用し開催しました。



## 静岡県知事を表敬訪問

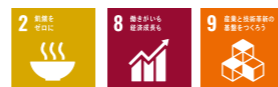
青壮年部高根支部が米コン受賞を報告

「第20回お米日本一コンテストinしずおか」で当JA青壮年部高根支部が「コシヒカリ」で最高金賞と静岡県知事賞を受賞しました。これを受けて2月5日、川勝平太静岡県知事へ受賞を報告しました。

同支部の勝又敬一郎さんは「品質が証明され、自信になった」と話し、川勝知事は「県内産が受賞したことは大変誇らしい。『ごてんばこしひかり』は一つのブランド米になっている」と称賛しました。



川勝知事(左から4人目)へ受賞米を手渡す勝又さん(右から4人目)



デジタルトランス  
フォーメーション

## DX導入で柑橘の防除省力化

本年度から実証試験開始

なんすん地区は沼津市、KDDI株式会社、全農、経済連などと連携し「西浦みかん」の担い手減少や高齢化に対応するため、自動航行によるドローンでの農薬散布技術確立に向けて実証試験を始めます。新たな防除体系を構築し、農作業の省力化を図ります。

試験期間は3年とし、その後は産地への導入定着を図ると共に他地区への展開を目指します。

※DXとは、デジタル技術を駆使して事業やサービスの変革、業務効率化を目指すこと



試験ほ場で樹を確認する営農アドバイザー



## 特産ダイダイでマーマレード作り

女子大学の受講生が女性部員から学ぶ

女子大学あいら伊豆キャンパスは2月26日、第3回目の講座を下多賀支店調理室で開きました。

地産地消の取り組みとして、特産の「ダイダイ」でマーマレード作りに挑戦。講師の女性部員から丁寧に作り方を教わりました。受講生からは「ダイダイが種以外の全てを使えることに驚いた。おいしく出来てよかった」と大変好評でした。同大学は年8回開催し、食や農の知識の向上に努めます。



講師の女性部員(手前)から作り方を教わる受講生



## イチゴで天敵活用し生物的駆除

天敵「リモニカ®」導入でハダニ駆除試験

伊豆太陽地区いちご委員会は、あくりチャレンジ事業を活用し、南伊豆町の会員のハウスで「リモニカ®」によるハダニの駆除効果を検証しています。

2月29日には「リモニカ®」(リモニカスカブリダニ)の生息や害虫被害などの調査を実施。農薬に比べ駆除効力に即効性はないものの、持続性が高く生産者の労力や費用の軽減が見込めます。5月末まで調査を継続し、本格導入を検討していきます。



「リモニカ」の生息などを調査する営農アドバイザー



## ふじのみや資材館1周年感謝祭

充実したサポートで地域貢献と農業振興

農業資材専門店「ふじのみや資材館」は1月21日に1周年を迎え、19日から3日間、大感謝祭を行い、肥料などの日替わりセールでにぎわいました。

同館では本格的な農業資材から家庭菜園用まで約8,000アイテムを取り扱い、専門職員が案内するなどして充実したサービスの提供に努めています。季節の農作業に関わる農機・資材などのフェアを企画し、facebookなどでも周知しています。



好評だった大感謝祭の日替わりセール



## 統一栽培で品質守る

「富士山麓わくわくコーン」栽培講習会開催

富士地区の「富士山麓わくわくコーン」は、コクのある甘さと食感の良さが特長の大人気トウモロコシです。ブランド品質を維持するために栽培基準を統一し、高品質栽培に取り組んでいます。

1月31日には栽培講習会を開き、食味向上のための施肥の方法や収穫のタイミングなどの基準を確認しました。5月末から7月にはイベント販売を行い、さらなるブランド力の強化を目指します。



生産者30人が参加し栽培基準を確認



## “坂もの野菜”祭りで盛り上げ

生産者とJA、地元団体が一致団結

三島函南地区は、箱根西麓三島野菜を盛り上げていこうと、昔の呼び名「坂もの」と称して、トウモロコシ、馬鈴薯、大根、甘藷の4品目を取り上げた「坂もの祭り」を昨年12月から順次開催しています。

生産者とJA、地元団体が団結して取り組んでいるもので、2月2日には坂もの祭り会議を開催。反響を呼んだ「大根祭り」「甘藷祭り」の反省点を生かして、今後開催の祭りに向け改善点や計画などを話し合いました。



多くの来場者でにぎわった「甘藷祭り」



## イチゴ・ミニトマトチャリティー

令和6年能登半島地震災害の義援金寄付

伊豆の国苺委員会と伊豆の国果菜委員会は2月15日、日本赤十字社伊豆の国市分会に能登半島地震災害の義援金を寄付しました。

両委員会は1月の伊豆の国いちごまつりで100円以上の寄付でイチゴやミニトマトを進呈するチャリティーを実施。イチゴでは83,616円、ミニトマトでは53,765円の義援金が集まりました。義援金は日本赤十字社を通じて被災地に届けられます。



飯田寿夫苺委員長(前列左)と西山稔果菜委員長(前列右)が河野真人会長(前列中央)に義援金を寄付